



平成20年晩秋号
発行：東青地域県民局
地域農林水産部
普及指導室
TEL：017-734-9966
FAX：017-734-8305



広域農協合併と集落営農組織の法人化 ～いわて中央農業協同組合の事例～

先日、農協の広域合併と集落営農の先進地研修に参加する機会を得たので、岩手県の事例について簡単に御紹介します。

1 概要

いわて中央農協は盛岡市と紫波郡を管内とする広域農協です。平成11年3月、旧紫波郡3農協が合併し、さらに平成19年5月に盛岡市農協と合併し、現在の形態となりました。岩手県内6農協構想の第1号であり、組合員数は準組合員を含めて18,000人となっています。

当農協は4つの営農センターと8支所がありますが、集落営農組織の育成のため、担い手支援センターを設置しているほか、平成17年に直売部門及び葬祭事業等を(株)JAシンセラという子会社化しています。



サン・フレッシュ都南店
地元の消費者に地元の新鮮で安全な農産物等を提供する産直施設

2 営農指導体制

管内の農業は水稻を主体に、野菜や果樹、畜産を組み合わせた形態となっています。水稻は「ひとめぼれ」が主力ですが、特別栽培米の取組や糯米の作付割合が約34%と高いことが特徴です。野菜はキュウリやトマト、ピーマンを主体に販売額が19億円、果樹はりんごが9億円、ぶどうが2億円など作物のバランスがとれています。また、相対販売や直接契約を重視しており、野菜の65%、米の60%が市場外取引となっています。

当農協では、「いきいき農業『つくる』『うる』『こだわり』への挑戦」をスローガンに「あんしん産地JAいわて中央」ブランドの確立を図ることを目標に以下の取組をしています。

- ①営農指導員の専任制と情報の共有による営農指導の強化



グリーンセンター
種苗や肥料、農薬等の農業資材を取り扱う店舗、祝日も営業

- ②集落営農組織等を対象としたハウスなす、加工トマト等の導入
- ③相対販売や直接契約取引の拡大
- ④出荷規格の見直し及び通いコンテナの利用
- ⑤施設毎の独立採算制を重視した運営(施設利用料引下げ、大口利用者への助成)、
- ⑥集落営農組織の育成を目的とした農家組合担当職員の配置

3 集落営農組織の法人化に向けた取組

当農協の水田経営所得安定対策への加入状況は任意組織が59経営体、法人が6経営体、認定農業者が107経営体となっています。旧紫波郡では約90%が当対策に加入していますが、盛岡市は認定農業者のみであり、集落営農の育成が進んでいない状況にあります。また、集落営農組織の法人化は、補助事業を利用して基盤整備や機械・施設導入を行う組織で進んでいます。

担い手支援センターは平成18年に設置し、19年から本格的に稼働しました。現在職員が4名おり、毎週月曜日に課内打合せを行うとともに、農協内の横の連携を図るため、毎月第一月曜日に営農経済相談連絡会議を開催しています。

○担い手支援センターの主な業務

- ①水田経営所得安定対策申請事務の代行
- ②経理一元化支援ツールによる経理事務指導
- ③集落営農組織等に対する政策支援
- ④営農経済相談活動

経理一元化支援ツールは、いわて中央農協が平成18年に開発しました。集落営農組織と経理事務受委託契約を締結し、10a当たり550～1,000円(最低20万円)で経理事務を支援しており、集落営農組織の設立や法人化に大きな役割を果たしています。



JAいわて中央の集落営農ビジョンの策定・実戦に向けた取組をモデルとしたビデオ

「あおもり海道そば」のブランド化をめざして!

今年度、普及指導室では県の重点事業として「東青そば海道づくり推進事業」を創設しました。本事業を活用し、生産者、製粉業者、製麺業者、そば店等で構成される検討会を開催し、東青産そばのブランド化を推進しています。これまで、商標登録に向けたネーミングの考案、地元産品と組み合わせた観光客向け商品や季節毎に特徴あるそばメニューの開発等に取り組んできました。

現在、地元産そばは青森市内そば店9店舗やA社の「鴨そば」の原料として使用されています。今後、東青地域で生産されるそばを「あおもり海道そば」というネーミングで販売し、青森市内スーパーや各種イベント等でPRしていくこととしています。



肥料費節約の特効薬！「簡易土壌診断」を受けましょう

各農協では21年春の肥料注文が始まっていますが、原油等価格の高騰に伴い、肥料価格も大きく上昇しています。(表-1参照)

そこで、肥料費を削減するためには、簡易土壌診断に基づく適正な施肥の推進、作物に効率的に利用される施肥技術の導入、割引制度を利用した仕入れ価格の低減、未利用・低利用資源の有効活用による化学肥料の削減などの工夫が必要です。



1 肥料費の節約方法

肥料費節約の具体的方法として、成分量当りの価格が安い肥料を選ぶ方法があります。たとえば、尿素複合燐加安484号で10a当り窒素成分量で7kg施用すると、今年は5,908円だったものが来年は10,025円と**4,117円も肥料費が増える**ことになります。

代わりに尿素複合燐加安777を使うと6,937円となり**1,029円の増加で済みます**。しかし、りん酸は成分量で7kg減ることになりますが、水稻栽培では、特に問題はみられません。

土壌診断でりん酸の過不足を調べ、場合によっては必要な分のりん酸を投入するとともに、肥効や成分バランス、土壌条件、作物や栽培方法等によって最適な肥料を選びましょう。

表-1 肥料価格の比較

品名 (成分量)	1袋当たり当用価格			1袋当りの成分量(kg)			21年の窒素成分 1kg当り価格
	20年	21年	前年比	窒素	りん酸	カリ	
尿素複合燐加安484(14:28:14)	2,363円	4,010円	170%	2.8	5.6	2.8	1,432円
尿素複合燐加安777(17:17:17)	2,121円	3,370円	159%	3.4	3.4	3.4	991円

注) 当用価格は管内A農協の春肥料予約注文書の価格(税込み)、1袋20kg

窒素成分1kg当りの価格は、肥料代をチッ素成分量で割ったもの

2 土壌診断でコストの削減を

本年度は「青森県日本一健康な土づくり運動」の一環として、過去3年間に土壌診断を受けていない販売農家を対象に簡易土壌診断を行っています。

土壌診断は、肥料が余っているのか、不足しているのかを判断するために有効な方法です。この機会にぜひ土壌診断を受けましょう。

詳しいことは、当県民局の普及指導室または、最寄の農協、市町村担当課へ御相談ください。



なみおかバサラコーンのPR販売を行いました！

～食べて、知ってください、地元の味！～

「なみおかバサラコーン(地域団体商標を出願中)」は、青森市浪岡産のスイートコーンです。浪岡農協では米、りんごに次ぐ特産物として平成14年から本格的に作付けを推進しています。今年は約13haに作付けされました。

なみおかバサラコーンの味を広く消費者に紹介するため、今年の夏に青森市のマックスバリュ浜田店と青い海公園(農ハウフェスタ2008)で即売会を行いました。

当日は、開始前から買い求める姿が見られ、「め～よ、食べてみて！」の生産者の元気な声に、試食した消費者から「美味しい!」「市内にこれほど美味しいスイートコーンがあるのは知らなかった、何処で売っているの?」などのうれしい声が聞かれました。

箱単位での購入も見られ「美味しい地場産のスイートコーンは消費者に受け入れられる!」と、生産者の自信と栽培意欲の向上につながりました。

今後も農家と関係機関が一体となって、栽培管理の徹底と品質の向上を図り、美味しいなみおかバサラコーンを地元消費者の食卓に届けていきたいと考えています。



販売店内用のポップで地元をPR!



10時販売開始! お客さんが押し寄せました



選び方、茹で方などで話がはずみます

※「バサラ」の由来

中世の時代、浪岡では、時代に風を起こした人々は、「^{ばさら}婆娑羅な者」と呼ばれていたそう。